

第四回企業活性化研究分科会・議事録

<第四回 2007年9月15日 時間：13：30～17：00 於：専修大学(神田校舎)7号館>

1. 参加者：山本、井端、大野、飯高、渡辺、横山、小島、菅原、宮川

2. テーマ 継続企業概念に関する論文の検討 No.3

3. 討議内容

3. 1山浦久司著「ゴーイング・コンサーン問題と会計士監査関与必要論」について

・報告者：横山哲也

・配布資料：レジュメ2枚

・報告内容

まず、GC 監査問題の背景として、国際的な流れとともにわが国における GC 監査の課題を説明し、続いて本論分のテーマである GC 問題への監査人の関与の明確なあり方、GC 問題に対する監査基準等での対応の必要性について報告をしている。

>1998年時点でのGC 監査問題の背景について

>監査におけるGC 問題について

>適正意見の要件とGC 問題について

>GC 能力判定と二重責任原則について

>GC 問題とリスク・アプローチについて

>GC 問題とコーポレート・ガバナンスについて

3. 2 町田祥弘著 「ゴーイング・コンサーン監査規定の国際比較-わが国の特徴と課題」について

・報告者：菅原智久

・配布資料：レジュメ2枚

・報告内容

本論文に基づき、GC 規定の国際比較を検討し、わが国の監査基準等における GC 規定の性格・特徴を明らかにし、わが国にとっての課題となる問題点を報告している。

課題としては、財務報告制度において GC にかかる開示規定が整備されなければならないこと、監査人による経営計画等の検討について過去の実績に大きく依存していること、国際的な動向への対応の三点である。

>ゴーイング・コンサーン監査規定導入の背景の比較について

>ゴーイング・コンサーン問題への対応の枠組みについて

>ゴーイング・コンサーン監査手続きについて

3. 3島田真一著「平成 15 年 3 月期決算における「継続企業の前提」に関する注記等の概要について」

- ・ 報告者：井端和男
- ・ 配布資料：2 枚
- ・ 報告内容

まず、平成 14 年監査基準の改定について説明をし、本論文に基づき、平成 15 年三月期決算において「継続企業の前提」について開示している 66 社の開示状況について報告している。また、これらの会社のその後の経過として調査した結果を報告し、注記に関する問題点を指摘している。

- 監査基準の改定について
- 「継続企業の前提」の開示状況について
- その後の経過として、調査結果について

3. 4 山崎秀彦著「改定監査基準におけるゴーイング・コンサーン問題の取り扱い」について

- ・ 報告者：大野喜一
- ・ 配布資料：レジュメ 5 枚
- ・ 報告内容

本論文に基づき、平成 14 年監査基準改訂のうち、特にゴーイング・コンサーン問題に焦点をしぼり、継続企業の前提に重要な疑義が認められる場合および、継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切で無い場合に経営者がどのような財務諸表を作成すべきか、また監査人がどのような監査意見を表明すべきか、という問題について報告している。

また、補足説明として監査基準改定に関する概要を報告している。

- ゴーイング・コンサーン問題に関する開示規定について
- ゴーイング・コンサーン問題に関する監査規定について
- 監査基準の改定について

4. その他

- ・ 発表内容をより検討するため「質問表」を配布しています。
- ・ 10 月 27 日、千葉商科大学経済研究所主催の公開シンポジウムへの参加

(文責：菅原智久)